

春まきたまねぎ栽培における細菌防除剤の腐敗抑制効果

【1 成果概要】

- (1) 春まきたまねぎ栽培では、腐敗症状の発生が懸念されており、特にネギアザミウマによる葉身への激しい食害が発生すると球重が低下し、腐敗球が増加するなど、その対策は重要です。殺虫剤散布により腐敗球率は低下しますが、細菌防除剤の効果はあまり明らかになっていません。そこで、殺虫剤・細菌防除剤の収量・腐敗に及ぼす影響について検討し、あわせて効率的な細菌防除剤の散布体系について検討しました。
- (2) 細菌防除剤を使用する際は、オキシリニック酸・ストレプトマイシン水和剤（商品名：マテリーナ水和剤）により、効率的に腐敗球率を低下させることが可能となります（表1、表2）。

表1 各試験区の薬剤散布の要素(2019年 農研北上本部)

散布時期 (月 日)	①殺菌剤(糸状菌剤)	②殺虫剤	③細菌防除剤(2回)	④細菌防除剤(5回)
5月 31日	リドミルゴールドMZ	トクチオン乳剤		
6月 10日	ザンプロDMフロアブル	ダーズバン乳剤40		コサイド3000
20日	ダコニール1000	アグロスリン乳剤	マテリーナ水和剤	マテリーナ水和剤
7月 1日	リドミルゴールドMZ	ディアナSC		コサイド3000
11日	アミスター20フロアブル	トクチオン乳剤	マテリーナ水和剤	マテリーナ水和剤
23日	フロンサイドSC	ディアナSC		コサイド3000
8月 2日(特別散布)		ファインセーブフロアブル		

※展着剤として、ミックスパワー3000倍を加用した。

表2 殺虫剤と細菌防除剤が1球重、腐敗、商品収量に及ぼす影響(2019年 農研北上本部)

薬剤の要素 ① ② ③ ④	試験区	1球重 (g)	腐敗球 率(%)	商品収量 (t/10a) [※]
○ — — —	殺菌剤(糸状菌)のみ	146.1 (100)	12.5	2.62 (100)
○ ○ — —	殺虫剤添加	228.7 (157)	5.4	4.79 (183)
○ ○ ○ —	殺虫剤+細菌防除剤2回添加	232.9 (159)	1.3	5.09 (194)
○ ○ — ○	殺虫剤+細菌防除剤5回添加	220.4 (151)	0.0	4.83 (184)

※腐敗球、規格外を除いたもの

【2 効果】

細菌防除剤の効率的散布により、本県産のたまねぎの高品質安定生産に寄与します。

【3 留意事項】

- (1) 東北地域の収穫期以降のりん茎から分離されたタマネギ腐敗性病害の病原細菌は *Burkholderia cepacia* complex 細菌とされています。
- (2) オキシリニック酸、抗生物質を含む薬剤は耐性菌の発生リスクが高いため、銅剤をはさんで連用とならないよう注意して下さい。
- (3) すべての試験区において糸状菌を対象とした殺菌剤は散布されています。また、展着剤（商品名：ミックスパワー）を加用しています。
- (4) 詳細については、「令和元年度試験研究成果」をご覧ください。

【4 適応対象】

- (1) 地帯 県内全域
 (2) 対象者 営農指導者（農業普及員等）

※ 本成果は農研機構生研支援センター革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきたまねぎ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証」による成果です。

担当研究室 園芸技術研究部 野菜研究室

〒027-0003 岩手県北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4420

FAX. 0197-71-1083